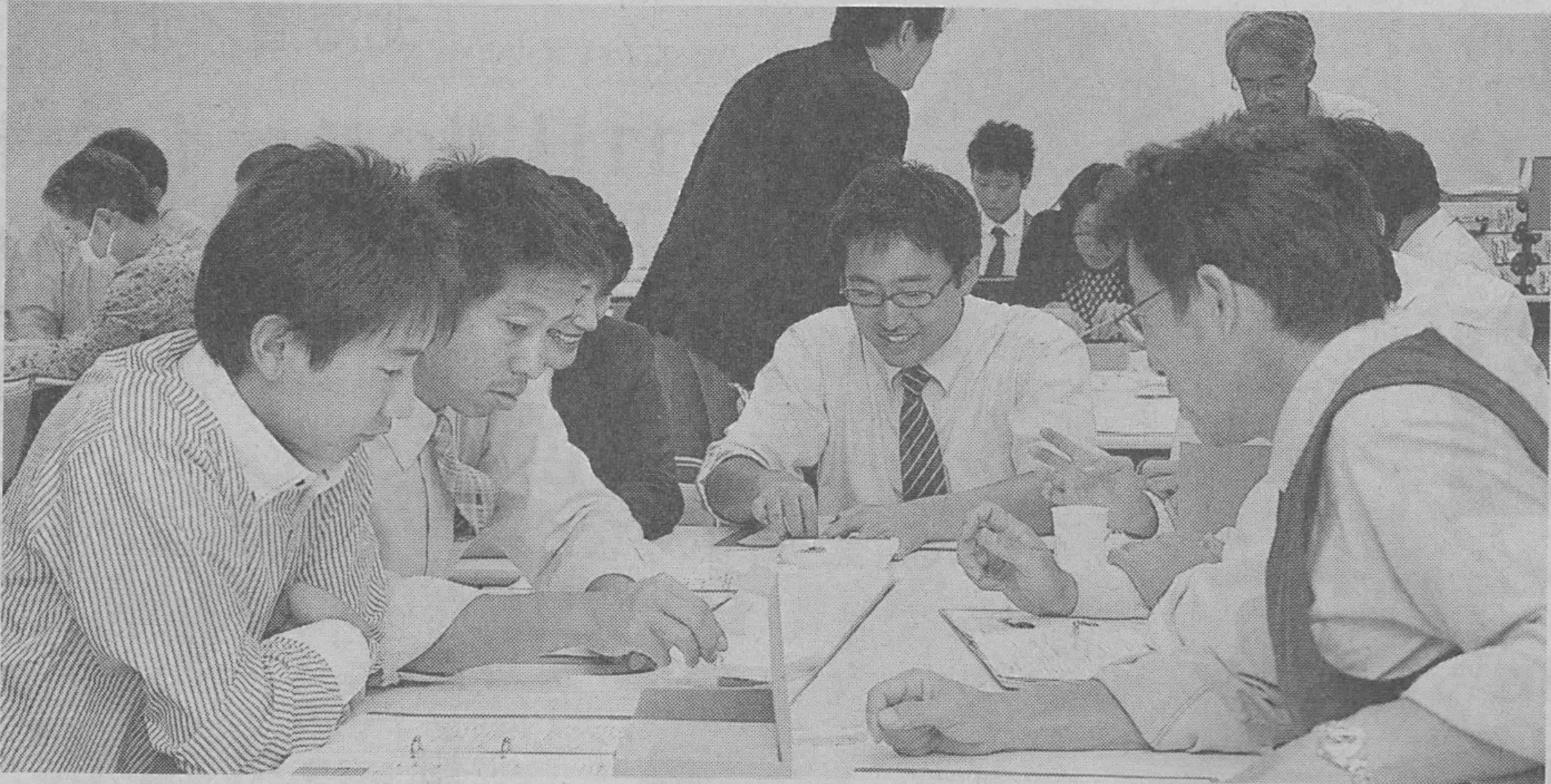


# 放射線 教師も学ぶ

研修参加

## 「正確な知識で教育」



放射線の実験を体験する中学教師ら(13日、藤岡市の市総合学習センターで)

原発事故による放射能汚染から身を守るため、児童・生徒への放射線教育が課題となっている。教師の側も何をどう教えて良いのか悩んでおり、専門家による研修などで正しい知識を得ようと懸命だ。中学3年生は今年度から、理科で放射線を学ぶことになっており、来年2月頃に初の授業を迎える。風評被害や差別の防止にも確かな教育が礎となるため、試行錯誤が続いている。

(田中ひろみ)



教育ルネサンス

「あ、見えた!」。放射性物質から放射線が出た軌跡を見られる霧箱実験に中

学の理科教師ら40人が声をあげた。13日、県内で初めて藤岡市で開かれた文部科学省の「放射線等に関する教育職員セミナー」で、教師らは放射線の基礎知識を学んだ。他の教師と授業案について討論した同市立小野中の中島浩良教諭(49)は「自分で勉強しようと思っても、どうしていいか分からなかった。授業のイメージがわいてきた」と話した。

高校で物理や化学などを選択しない限り、これまで小中高の授業で放射線を学ぶ機会は無かった。内容が高度であることなどが理由だった。だが、発電や医療分野で身近な放射線に対する教育の必要性を指摘する声が強まり、理科の新学習指導要領で今年度から、中学3年時に放射線について学ぶことが決まった。しかし、配られた教材